

別添

事件詳細記事 (s a k h . c o mから事件記事を引用)

1 強盗

- ① [強奪] 4月4日土曜日の夜,56歳のユジノサハリンスク在住の男性は,ドアをノックした音を聞き,ドアを開けると司法機関によってマークされている2人の不明者が立っていた。犯人達は,部屋の中に押し入ると男性に金品を出すよう要求した。犯人達は,家から携帯電話3台及び1万ルーブルを運び出した。犯人達は家から姿を消し,家主は警察に通報した。警察官が到着し,近隣地域で捜査を行う過程で外見が犯人と似ている男達に目が止まり,男達は拘束された。男達は,丁度数時間前,被害者のところにいたことが明らかとなった。盗まれた携帯電話は押収されたが,現金は犯人達が酒を購入し,使ってしまった。刑事事件が提起され,23歳の両容疑者に現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全処分措置がとられた。
- ② [強奪] 4月14日の深夜,ユジノサハリンスクにおいて,ジェレズナダロジナヤ通18Aに所在する第5郵便局で強奪が試みられた。郵便局長リュボフィ・スシケビッチが語ったところによると,数人の見知らぬ者が鉄格子を切断し,二重窓ガラスを割り,窓から建物内に侵入した。しかし,現金は警報装置付の金庫に保管され,犯人達の試みは成功しなかった。犯人達は現金を奪うリスクを犯さなかった。郵便局には,人感センサーがあり,そのセンサーが作動し,警報を鳴らした。犯人達は,警報に驚き,棚や引き出しさえ探すことなく,直ぐに郵便局から立ち去った。犯人達にとって取るに足らない,若干の書類,事務用品が散らかった。現在,郵便局は営業している。穴の開いた窓は塞がれ,現場では警察官と警察犬が捜査活動を行っている。第5郵便局への襲撃は初めてではない。6年前,正にここで,営業時間中にマスクをし,不明者3名が侵入し,拳銃で脅しながら,現金を渡すよう強要した。3月20日にはユジノサハリンスク市の第21郵便局で強奪犯が100万ルーブル以上を盗み,3日後,犯人達の拘束に成功した。
- ③ [強奪] 5月1日,サハリン州内務局ユジノサハリンスク市刑事捜索課は,強奪の容疑で26歳のドリンスク在住の男を拘束したと発表した。犯人は,ユジノサハリンスク市内において公然と質屋から金のブレスレットを盗んだ。捜査員は,犯人が更に2件同様に犯罪を行ったことを明らかにした。この犯罪の被害額は総額で20万ルーブル以上になる。刑事事件が提起され,容疑者に対しては,現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全措置が取られた
- ④ [強奪] ユジノサハリンスクにおいて,地元居住の20歳の女が警察により,強奪の容疑で拘束された。秩序警備班は,ユジノサハリンスクのあるカフェの近くで発生した犯罪を明らかにした。容疑者の女は,暴力により申告者の金のネックレスと現金を奪

った。損害は、5万3000ルーブルになる。被害者は、すぐに警察の当直部門に連絡した。警察官が事件現場に到着し、間もなく、犯人を拘束した。この事実に関し、刑事事件が提起され、容疑者に対し、現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全措置が取られた。

2 殺人,過失致死等

- ①〔殺人未遂〕サハリン州捜査委員会ポロナISK捜査課によって、4月6日夜に飲酒による酩酊状態にあった36歳の地元の女に対して、泣いていた自分の5歳の娘の腹部を包丁で刺したとして殺人未遂で刑事事件が提起された。子供は包丁により刺された傷により、ポロナISK中央地域病院救急科に入院した。この刑事事件の捜査の過程で、2014年12月24日、警察官によって被害者である娘が社会的危険の状態にあったことが明らかになり、その結果、娘は病院に入院し、その後、娘は社会リハビリテーションセンターに移されていたことがわかった。娘はそこに2015年2月3日まで滞在し、その後、保護監督課の指導専門家により、娘がセンターから出て、家族と一緒に暮らすことが許可された。現行法に規定の違反において、保護監督機関の公務員は、青少年を保護下に置くために、家族から引き離すことができず、何等の処置もとることができず、結局、これが母親の娘に対する殺人未遂行為に繋がった。監査により、市行政機関の保護監督機関の指導専門家の活動における職務の怠慢が明らかとなり、母親に対して刑事事件が捜査課により提起された。
- ②〔殺人〕サハリン州捜査委員会ドリンスク捜査課において、スタロドゥブソコエ村ザボードスカヤ通りの家の間で顔に血がつき、ナイフの刺傷がある暴力による死亡の痕跡のある45歳の地元男性住民の遺体を発見したとの通報を受けた。この犯罪を行った個人は特定された。犯人は、仕事のため、サハリン州に来た29歳のウリヤノフスク州の男であることが判った。監視付き拘禁状態による身柄保全処分に関する請願書がドリンスク市裁判所に送られた。捜査により、4月16日の深夜、容疑者と被害者は共にお互いが知る友人の下を訪れたことが明らかとなった。飲酒の過程で男達の間でつかみ合いの喧嘩となった。通りに出て、容疑者は、木製の角材を手に取り、被害者の頭を何度か殴った。その後、容疑者は、倒れた被害者の首の部分ナイフで刺した。被害者は受傷により事件現場で亡くなった。現在、刑事事件捜査が続けられている。
- ③〔殺人〕4月20日、ユジノサハリンスク市アレクサンドル・ボルク通15に面するロガトカ川において、32歳の地元女性の遺体が発見された。法医学鑑定の結果、女性の死は、気圧圧迫による人的窒息であることがわかった。サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課によって、殺人により刑事事件が提起された。捜査委員会捜査課と警察の刑事捜索捜査官の緊密な連携により、殺人の容疑者を特定した。4月22日の深夜、ユジノサハリンスク在住の28歳、30歳、38歳の3人の容疑者の男は拘束されたことが明らかとなった。現在、容疑者達に対し、監視付き身柄保全処分に

関する問題の解決が行われている。捜査により、4月19日、容疑者達は、被害者が警察と協力しているとの事実を話し合うために、被害者を自分達の下に招いた。飲酒の過程で、28歳の男は、被害者の顔を腕と膝で殴った。その後、容疑者達は、被害者をロープで絞殺した。その後、容疑者達は被害者女性が生きているかのように装い、容疑者の1人が遺体を家から川岸に運び出した。刑事事件により、証拠の収集及び確保に向け、捜査が行われている。

- ④〔殺人〕4月13日深夜に家からいなくなった28歳のユジノサハリンスク女性住民ユーリヤ・カルポバの遺体が、4月23日夕方、ノバアレクサンドロフスク計画地区の墓地で発見された。捜索に参加したボランティアの1人は、犠牲者は午後6時30分に発見したと話した。移動の途中で、ボランティア達は、以前、何度か調査している墓地の方向に注意を向けた。より近くに近づきと掘り返したばかりの墓が見えたことから、警察に電話した。遺体はユーリヤ自身の衣服が掛けられビニール袋の中にあった。アクセサリーは盗まれていなかった。彼女は絞殺されたように見えたと言ったボランティアの1人は補足した。遺体は、彼女の死亡原因を明らかにするため、鑑定に送られた。ユーリヤ・カルポバは、4月12日に彼女の家の近くの女友達の下に出掛けた。4月13日午前2時ころ、彼女は家に向かった。約30分後、女友達は、ユーリヤに電話をしたが、ユーリヤの電話は、すでに圏外となっていた。このことを女友達は警察に伝えた。ユーリヤの夫は、この時、出張中であり、事件が起こった後、夫はサハリンに戻ってきた。ユーリヤは、最近、亡くなった自分の姉の子供（姪）を養育し、自分にも4歳の息子がいる。
- ⑤〔殺人〕5月9日、ユジノサハリンスク市レーニン通306のあるアパートで顔の溢血及び首に絞められた跡がある暴力による死の痕跡がある32歳のスミルヌィフ地区在住の27歳の女性及び32歳のドリンスク在住の女性の遺体が発見された。この事実に関し、ユジノサハリンスク市捜査課によって殺人より刑事事件が提起された。捜査課の捜査員と刑事捜索課の捜査員による緊密な連携によって、容疑者を明らかにした。犯人は、人間の生命と健康に向けられた特に重大な犯罪行為に対する前科があることが分かった。5月11日に拘束された37歳のユジノサハリンスク在住の男は、2012年6月に刑務所を出所していた。捜査請願書により、市裁判所によって、犯人に対し、拘禁による身柄保全措置が取られた。捜査によると容疑者は、上述の住所に到着し、被害者の内の1人を訪ねた。犯人は借金を返済することを望んでおらず、この際、犯人は、弾力のある物体を手に取り、被害者を絞殺した。容疑者は、部屋の中を探す過程で、2人目の被害者を洋タンスの中で発見した。女性が犯罪を目撃し、そして、彼女が通報することを理解したことから、犯人は、彼女も絞殺した。2名の殺人により、犯人は、8年から20年の自由剥奪又は終身刑になる可能性がある。刑事事件により、事件状況に関して捜査が続けられている。
- ⑥〔殺人〕アレクサンドロフスク・サハリンスキー市レーニン通り10-12に居住

するアレクサンドロフスク・サハリンスキー出身の1974年生まれの「グルジア人」とあだ名がある男がサハリン州捜査委員会アレクサンドロフスク・サハリンスキー捜査課及び州内務局内務部によって特定された。捜査によると男は、5月10日朝6時ころ、アレクサンドロフスク・サハリンスキー市ジェルジンスキー通り19に所在の家屋の中庭で12口径と推定されるライフル銃で地元男性に向け射撃を行い、男性は受傷により事件現場で亡くなった。犯人の特徴は、年齢38歳から40歳、外見はグルジア人、体格は中肉、身長は170から175cm、浅黒い顔立ち、黒髪だった。犯人は、現在もライフル銃を所持している可能性がある。サハリン州捜査委員会アレクサンドロフスク・サハリンスキー捜査課では、犯人の居場所に関する情報を求めている。

- ⑦〔殺人〕サハリン州捜査委員会ティモフスク地区捜査課において地区病院の受付において、この病院に入院している胸、腹、腰に多数の刺し傷のある39歳の地元男性が死亡したとの通報を受けた。この事実に関し、ロシア刑法典の殺人に規定される犯罪要件により刑事事件が提起された。この犯罪行為を行った容疑により、38歳のスミルヌィフ在住の男が拘束され、犯人に対し、拘禁付身柄保全処分措置が取られた。捜査の説明によると、容疑者は、仕事でスミルヌィフを訪れ、そこで被害者は地元住民とともに働いていた。最近、作業で欠陥品が出たことを考慮して、容疑者は、仕事の成果に対する金を彼らに支払うことを拒否した。被害者はこのことを話し合う目的で、5月17日の深夜、容疑者の家を訪れ、そこで喧嘩となった。このことで容疑者はナイフを手に取り、被害者の体の様々な部分を少なくとも6回刺した。被害者の男性は、病院に収容され、そこで数時間後、亡くなった。この刑事事件の捜査は現在も続けられている。
- ⑧〔殺人〕サハリン州捜査委員会オハ市捜査課により、地元居住男性の遺体を発見した事実により殺人及び重大な健康被害の故意の惹起の2件の刑事事件が提起された。両犯罪とも、飲酒により引き起こされた。最初の事件では、被害者が容疑者を侮辱した。喧嘩が始まる過程で、容疑者が被害者の頭部と体を手で何度も殴った。第二の事件では、45歳の敵対する立場の容疑者が被害者に対し数度、包丁で胸部を刺した。事件現場で被害者は死亡した。捜査によって、犯罪を行った容疑者が特定され、彼らは拘束された。裁判所に彼らに対し、拘禁付身柄保全処分の選択に関する請願書が送付された。
- ⑨〔殺人〕サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課によって、6月8日から9日の深夜に行われた殺人が暴かれた。ニェクラソフ通り地区において、燃えた車のトランクルームの中に暴力による死の痕跡のある遺体を発見した事実に関し、捜査課によって殺人の刑事事件が提起された。殺人は敵対関係にある容疑者の家で発生していたことが分かった。その後、容疑者は犯罪を隠す目的で遺体をトランクルームに入れ、ニェクラソフ通りに行き、そこで車に火を付けた。現在、容疑者は拘束され、捜査官により、容疑者に対し、拘禁下における身柄保全措置に関する請願書の準備が行われている。

⑩〔殺人〕サハリン州捜査委員会コルサコフ捜査課によって、殺人により刑事事件が提起された。捜査の過程で、6月14日深夜1時ころ、オホーツク村の商店「マリヤ」付近でコルサコフ地区において休暇中のユジノサハリンスク市在住の男4名と同村在住の男5名の間で喧嘩が起こったことがわかった。喧嘩の全ての関与者は、アルコール酔いの状態にあったと推定される。喧嘩は掴み合いの喧嘩に発展し、オホーツク村の住人は、少なくとも4回、狩猟用のライフルを発射した。2発は車に向け、もう2発は人に向け発射した。射撃の結果、26歳のユジノサハリンスク在住の男性が出血多量により、事件現場で亡くなり、1人は、コルサコフ地区中央病院の救急科に入院し、他の2人も身体に負傷がある。43歳の射撃者は、拘束され、捜査官により拘禁下での身柄保全措置に関する請願書の準備が行われている。

3 暴行・傷害・強姦等

①〔傷害〕昨日（4月19日）、マカロフ中央地区病院に頭蓋骨開放骨折により、24歳の地元男性が搬送された。男性は地元のカフェにおいて、この負傷を受けた。直ちに機動捜査班が事件現場に派遣された。警察官は、事件現場を捜索し、監視カメラ映像を押収し、同様に血痕を採取した。捜索活動措置の結果、間もなく容疑者は38歳の地元の男であり、事件状況が明らかになった。日曜日（4月19日）の深夜、カフェに2組の客が到着した。相当量を飲酒した数時間後、2組の客の間で喧嘩となり、すぐにつかみ合いとなった。つかみ合いの喧嘩の結果、容疑者は椅子で被害者の頭を殴り、被害者は重症を負った。この事実に関し、刑事事件が提起された。被害者は病院に入院し、重症と診断された。

②〔強姦〕31歳のユジノサハリンスク在住の男が14歳に達していない少女に対して、暴力的なセクシャルハラスメント行為を行ったとして容疑（性的性格の犯罪行為）を掛けられている。捕捉審理調査の過程で5月24日、容疑者は、被害者が未成年であると知りながら、肉体関係になることを拒む被害者に対し、腕力により暴力的なセクシャルハラスメント行為を行った。刑事事件捜査が継続されている。

③〔強姦〕6月7日深夜、ユジノサハリンスクにおいて、54歳の小児愛者が拘束された。先週、報道で事件に関しての状況説明があった。捜査官は幼児に対する暴力的セクシャルハラスメント行為の容疑で男を捜索していた。捜査のため詳細は秘密となっている。

④〔傷害〕サハリン州捜査委員会委員長代行によって、アレクサンドロフスク・サハリンスキー市長が行った殴打の刑事事件が提起された。捜査の過程において、5月6日、容疑者は敵対関係にある被害者との間で喧嘩となり、顔、首を各1回、殴打した。容疑者は自らの行為によって、被害者の健康に影響はない身体に負傷を負わせた。現在も刑事事件の捜査が続けられている。

⑤〔強姦〕サハリン州捜査委員会アニワ地区捜査課によって、犯罪を行った24

歳の男に対し、刑事事件が提起された。捜査の過程で、6月14日、容疑者は短い付き合いの女性被害者を車に乗せ、連れていった。途中、容疑者は、彼女と性的関係を持ちたいとの企みが起こった。容疑者は、自らの犯罪の企みを実現するため、抵抗する被害者を力で抑え込み、強姦した。現在、刑事事件の捜査が続けられている。

4 窃盗等

- ①〔窃盗・放火〕ロシア内務局ノグリキ地区の警察官によって、放火と財産窃盗の容疑が掛けられている22歳のオハ地区在住の無職の男が拘束された。6月の初め、容疑者はノグリキ地区に行くことを決めていたことが分かった。そこで、彼の知人たちは彼を匿い、遠い親戚の空いている部屋に一時的に住ませた。しかし、仕事を探すどころか、新しい居住地に慣れ、若者は、飲酒し、家に非社会的な人生を送ってきたような男を連れてくるようになった。この非社会的な男は、家主を好きではなく、家主は部屋を明け渡すよう要求した。若者は、部屋を出たが、しかし、彼は家主が間違った態度とっていると考えた。部屋はまだ空いたままだと考えた若者は、部屋に戻り、そして、テレビを盗んだ。その後、犯人は、アパートの部屋の1つに放火し、姿を消した。その後、幸い、火災はすぐに発見され、鎮火された。被害は4万3000ルーブルになった。警察官は、放火の事実を明らかにし、捜索活動措置の過程で、ノグリキ地区の境界まで逃げようとしていた犯人を拘束した。このほか、捜査の過程で、警察官は、犯人が盗んだテレビを売っていたことを明らかにした。犯人に対し、財産の故意の損傷、毀滅及び窃盗により、2件の刑事事件が提起された。
- ②〔窃盗〕6月24日、26歳の地元女性がユジノサハリンスク市内務局に窃盗に関する申告を行った。女性は不意に多額の現金の入った財布を失くしたと語った。この日、彼女はお菓子を購入するため、菓子店に立ち寄り、店内を見ていた際、3万5000ルーブルが入っていた財布が跡形も無くなくなっていた。監視カメラの記録を確認していた警察官が犯行の状況を明らかにし、この犯罪を行った60歳の女のもとに向かった。店の建物の中にいた被害者女性は気持ちが他に転じ、財布をレジ台に忘れていた。これを被害者女性の後ろで列に並んでいた女が見ていた。しかし、この女は、財布の持ち主に声を掛けず、財布を素早くつかみ取り、店から出て行った。警察は容疑者の居場所を明らかにしたが、この間に容疑者の女は、盗んだ金の内、8000ルーブルを消費していた。残金は押収され、間もなく、持ち主に返還される予定である。この事実に関し、ロシア刑法典の窃盗に規定される犯罪の痕跡により刑事事件が提起された。容疑者に対し現在地を離れない旨の誓約書への署名による身柄保全措置が選択された。
- ③〔窃盗〕6月23日、ホルムスク市内務局に女性年金受給者が彼女のアパートから4万ルーブル及び貴金属製品の窃盗に関する申告があった。被害額は7万3000ルーブルになる。総合的に捜査措置の過程で捜査官は、事件が起こったアパートを

再現した。以前、被害者の孫娘の友達が被害者のアパートの鍵を盗んだ。丁度そのとき、家には誰も居らず、若い女性は他人の家に侵入し、そこから上述の額の現金と貴金属を盗んだ。警察官は15歳のホルムスク在住の少女を拘束した。少女は貴金属を質屋に渡し、約1万5000ルーブルを手に入れていた。彼女は全額をナイトクラブでの休息、個人的な物の購入など遊興に使っていた。貴金属は押収され、持ち主に返還される予定である。

5 薬物・銃器

- ①〔薬物〕4月9日、サハリン流通麻薬対策局の捜査官は、3名の地元の男を拘束した。当局捜査官によって、32歳のユジノサハリンスク出身の男は、2名のユジノサハリンスク出身の男に合成系麻薬を販売したことが明らかにされた。流通麻薬対策局の捜査官は、まず購入客を拘束し、その後、身体検査によって小包みに分けられた麻薬混合物を所持していた販売人を拘束した。麻薬販売者のアパートの搜索の過程で、捜査官は500回以上の使用量で100グラム以上の麻薬物質を押収した。当局の鑑定結果によれば、発見された物質は、合成化合物由来の喫煙麻薬であった。特に大量の麻薬の保管だけで刑法典では、10年から15年までの期間の自由剥奪刑を規定している。
- ②〔薬物〕ロシア連邦保安庁サハリン州局は、搜索活動措置の結果、マガダン州居住の男によるサハリン領域への麻薬物質の違法輸入を明らかにし、阻止した。ユジノサハリンスク空港において、容疑者の身体及びバックの中にあつた袋の検査の過程でジェル状の物質が入った髭剃り用シェービングフォームの金属容器を発見した。サハリン流通麻薬対策局の鑑定結果により、この混合物には、139.7グラムのヘロインが含まれていた。拘束者の話によると、麻薬は、彼が島外で入手し、サハリンの麻薬使用者に送り届けるつもりであったと語っている。連邦保安庁捜査課は、大量麻薬の違法入手、販売目的なしの麻薬物質の保管及び輸送により刑事事件を提起し、現在、捜査が続けられている。
- ③〔薬物〕4月14日から15日に掛けての深夜、サハリン流通麻薬対策局の捜査官は、特に大量のハシシオイルを押収した。サハリン流通麻薬対策局において、ワニノからホルムスク間のフェリーで麻薬の運搬を試みようとしているとの情報があつた。搜索活動措置の過程で、流通麻薬対策局の捜査官は、2人のアムール州居住の男がサハリン州に麻薬物質を供給していたことを明らかにした。拘束者の内の1人が所有する自動車の綿密な検査の過程で、捜査官は17本の0.5リットルのペットボトルに入れられたハシシオイルを発見した。押収された麻薬の価格は、闇市場で1500万ルーブル以上になる。容疑者達は、この悪行の責任から逃れることを期待した、麻薬を自動車のガソリタンクに隠した。大量の麻薬物質を運搬した大陸からの麻薬商人達は終身刑になり得る。

- ④〔薬物〕サハリン州内務局刑事捜索課の警察官によって、ポロナイスク地区でハシシオイルの流布に従事していた組織犯罪グループの活動が根絶された。数日の間に、警察官はポロナイスクに住む38歳から42歳の3人の容疑者を拘束した。犯罪グループの活動の構図は次のとおりだった。組織の構成員は、ハシシオイル入りの注射器を流布するために売人に渡し、そして、売人達は、直接、顧客達と仕事をし、顧客達により麻薬は良く消費された。麻薬を販売して得た金は、組織の構成員が受け取った。犯罪グループの関与者達は、地下活動を見守り、決して彼らを密告しないと保証した。拘束者の内の1人であるポロナイスク在住の38歳の男の身体検査の過程で、警察官は、ジャンパーのポケットの中にあつたタバコ箱の内に暗色の物質が入ったビニール袋、帯状のもので隠匿された同様の物質が入った医療用注射器を発見した。同様に犯人の職場の捜索活動の過程で、暗色物質で満たされた容量12立方センチメートルの17本の注射器を発見した。鑑定人が検査結果により、163.74グラム全量がハシシオイルであると結論を出した場合、その使用量は400回分になる。麻薬の違法販売で刑事事件が提起され、最高刑は8年間の自由剥奪である。犯罪グループ2人は逮捕され、更に1名に対しては、現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全措置が取られた。この他、2名に麻薬購入者が拘束され、同様に現在地を離れない旨の誓約書による身柄保全措置が取られた。
- ⑤〔薬物〕サハリン流通麻薬対策局の捜査官は、2名のロシアマチュリコフ地区出身者が所持していた2キログラム以上の合成系麻薬を押収した。拘束者たちは、定職に就いておらず、金に困っていた。彼らの内の1人が若者の間での流行を介して楽に稼ぐことを期待しているグループを見つけた。ニックネームを使った不明の者が若者たちに麻薬の小売人になるよう命じた。容疑者たちは、それが重い犯罪になると知りながら犯罪を行った。若者たちは麻薬の包装を行わなければならなかった。その後、「雇用者」の指示により、麻薬を隠し場所に置いた。犯罪者たちは、2種類の合成麻薬を現金化する目的でサハリンを訪れたが、自分の目的を最後まで達成することができなかった。サハリン州流通麻薬対策局の捜査官は、犯人を拘束し、約700万ルーブルの違法流通麻薬を押収した。